

第6回「空港運営に関する有識者懇談会」議事概要

日時：平成24年3月29日（木）16：00～17：00

場所：北農健保会館3階「芭蕉」

1. 空港経営に関する有識者懇談会報告書（案）について

【説明概要（佐藤座長）】

- この報告書を取りまとめるに当たり、8人の委員の意見の中で最低限言わなければならないこと、共通の思いとしての部分を盛り込んでいる。
- この懇談会は、国に先手を打たれたところから始まっているが、徹底的に議論してしのぐ方策をまとめている。それは空港経営の効率化であり、情報の公開である。それを続けることによって、しのいで先手を打つのがバンドリングである。北海道が地域特性を踏まえて国管理空港をバンドリングして、地域の航空ネットワークとして国へ先手を打っていかうというのが報告書の本意である。

【各委員からの主要なご発言】

- 国の考える効率性という方向と、我々地域が考える効率性には違いがあるということ国に対してきちんと申し上げることが大事。バンドリングにより、北海道の空港のあり方、航空のあり方に一石を投じられると強く考えている。
- バンドリングの話は、これからどのような具体的な検討をして、国に先んずる展開をしていただくか、道にこれからの動きとしてお願いしたい。
- 各空港が規制時代の発想にとらわれることなく、削減可能な維持・管理コストの徹底的な洗い出しをすることが大事。
- 国管理空港の収支は第三者がプランを練るに当たって相当重要な要素なので、道から国に対して情報開示を求めていくことが必要。
- コンセッションの後においても、自治体が空港の応援団になっていかないと、地域一体となることができなくて、よその会社がやっているんだらうという感覚になり、空港が孤立する可能性がある。
- 道内の航空ネットワークを維持するという報告であれば、それぞれの空港のバンドリングだけではなく、ネットワーク航空路線網もあわせて、今後北海道としてどう考えるかということが大事な視点。
- 広大な地域であること、維持管理費用の多くを占める除雪費が事業リスクとなり得ることなど、北海道の特殊性を訴えていく必要がある。これらの地域事情を国に伝え、北海道にとってプラスになる空港経営改革に誘導していくためには、国における実行方針の策定やマーケットサウンディングという今後の流れを見据え、更なる検討を進めていく必要がある。また、PFI、コンセッション、バンドリングといった事業スキームにおける技術的な要素については、別途の専門的な検討組織を設けることで議論を行い、次のステップの準備を進めていく必要がある。

2. 報告書の手交

【佐藤座長から】

- 「道内空港の持続的な運営を目指して」として、空港運営に関する有識者懇談会の報告書をお渡しする。是非、北海道は独自のビジョンをもち、主張すべきことは国に主張して、道内の空港維持に当たってほしい。

【高井副知事から】

- 道内空港の持続的な運営という、本道にとって大変重要な課題に対する北海道の方向性をお示しいただいた。
- 本報告書をしっかりと受け止め、道内空港の持続的な運営に向けて、着実に取組を進めてまいる。
- 国の空港経営改革についても、本報告書などを踏まえ、道の考え方を早急に整理して、国が本年夏頃までに策定すると言われている「空港経営改革の実行方針」に対して、しっかりと意見を述べてまいりたい。

3. 各委員から一言

【各委員からの主要なご発言】

- おそらく我が国でのLCCの展開というのはここ数年で陣地取りが終わってしまうという状況も考えざるを得ない。新千歳のポテンシャルをそういったことの受け皿に生かしていくという積極的な空港活用に取り組んでいただきたい。
- この検討があったおかげで、10年20年先において、道内の航空ネットワークが一段と良い物になっていると評価されるような形を目指して、施策の検討を進めていただきたい。
- 北海道は他の都府県とは際だって違うので、空港を考えるとときに路線とネットワークを切り離しては考えられない。新千歳を核とするスポーク路線と道内の循環路線ということを考えなければ道内ネットワークが崩れることを心配。
- 空港にはお互い相手側がいて相互依存により足し算ではなくかけ算にもっていくことが大事。新千歳を中心として早く相手の空港、国を見つけて、どう発展していくかという話も言外に含まれての相互依存という、空港の議論はできたのではないかと思っている。
- 北海道にとって飛行機のネットワークは絶対に大事であり、コストをいかに下げるかということのをこれを機に徹底的にやっていただきたい。皆が気軽に使えるような環境をどう作っていくのかということも道や我々関係者の役割。
- コストについて、従来の発想ではとても下げられないものを下げなくてはならない。規制時代の発想を変えて新たなビジネスとしての視点が必要。
- 北海道の地方について、将来どういう姿を描いて、社会基盤をどう維持していくか。札幌圏からの見方と地方からの見方は対立する部分もあると思うが、高速交通網全体として道内の活性化とあわせて交通問題を考えていく視点を失ってはいけないと思う。
- 北海道に13の空港があるというのは大きな財産。この13の空港を徹底して利用していくことが北海道の飛躍のポイントになる。その意味で北海道は非常に可能性の高い、いろいろな意味で豊かな地域になっていく素地がある。13空港を是非大事にしていきたい。